THE JOURNAL OF TRADITIONAL VETERINARY MEDICINE

2010
Vol.18
No.1

日本伝統獣医学会誌

大会号

Proceedings

The Third Academic Conference of Asian Society of Traditional Veterinary Medicine

The 46th Scientific Conference of Japanese Society of Traditional Veterinary Medicine

日本伝統獣医学会誌
Published by Japanese Society of Traditional Veterinary Medicine

漢方薬あるいは健康食品による高齢動物の健康管理

小松　靖弘
北里大学北里生命科学研究所　客員研究員、日本

日本は高齢社会を迎えているが、ペットの状況もヒト同様に高齢化している。それは、高齢者が大変丁寧に彼らを飼育しているために、早期での死亡が少なくなっていることによると考えられる。一般に高齢者は糖尿病、高血圧、腎障害、関節障害など幾つもの疾患に罹って、免疫反応性、肝機能、腎機能悩、中枢機能など生理学的な活性、機能は障害され、低下しているのが現状であり、それに伴って多くの薬剤が同時に処方されている。このような状況は“健康”という観点からは決して良いことではない。ペットであれ、ヒトであれ、生理機能を健康に維持しなければならないが、生涯を通じてこのような機能を健康に維持することは極めて困難である。

漢方薬の中には特徴的な効果を示す範疇の薬剤群として“補剤”というものがある。“補剤”には十全大補湯、補中益気湯、人参養栄湯などがある。これらの薬剤は免疫反応性、骨髄血液幹細胞の賦活、食欲の改善などの効果を発現することが、実験薬理学的研究から明らかにされている。

人参養栄湯には神経幹細胞の賦活作用があり、NGFの産生を促して、低下した脳機能の改善効果により、犬、ヒトなどの認知症の改善に効果が示されている。また、健康食品の中にはNGFの産生を促す“ヤマブシタケ（猴頭菇）”というキノコがあり、現在注目を集めている。柴犬、秋田犬など日本犬の仲間では認知症に罹患する場合が多いので、今後の臨床研究が望まれる。

変形性関節症も大きな問題で、これもヒト同様に犬では治療上重要な疾患である。この疾患治療には非ステロイド系消炎鎮痛剤（NSAID）が適用となっている。NSAIDが厳しい消化管障害を起こすことはよく知られており、NSAIDの長期連用は副作用の関係から不可能である。

演者は過去10年間、消炎、鎮痛活性を有する健康食品の開発を進めてきた。一生使い続けても副作用がなく、安全で消炎、鎮痛効果を示す健康食品を食品で構成することを目標とし、SRD-P401は西洋ハーブ類、東洋バーブ類を組み合わせた食品で極めて有効性が高いものである。現在のところ、消化管障害の副作用は認められていない。SRD-401はヒトの関節障害、頭痛、肩凝りなどにも有効性が認められており、高齢化を迎えて関節障害を持つ犬の治療にも有効性が認められている。本健康食品は消化管障害が認められないことから、多くの疾患における炎症性反応の制御など幅広い応用が期待される